３ 高病原性鳥インフルエンザ対応訓練

鳥取県西部家畜保健衛生所　青萩芳幸

１　はじめに

平成26年１月から韓国ではH5N8亜型の高病原性鳥インフルエンザ(以下、HPAI)が流行し、我が国でも今年度は HPAI 発生が危惧されていたが、平成26年12月に宮崎県及び山口県で、平成27年１月には、岡山県及び佐賀県で養鶏農場において HPAI が発生した。

HPAI はいつ何時発生するかわからないことから、発生に備えた準備が必要である。HPAI 対応訓練もその１つで、西部家保では平成23年度以降は図１の訓練を西部総合事務所の協力を得て実施してきた。これらの訓練の目的は速やかに対応できるように HPAI 発生時に実施する内容を把握しておくことである。

図1　西部地区鳥インフルエンザ訓練実施状況
（H23～26年度）

実施日	訓練名(実施場所)
H23.10. 5	埋却溝掘削演習(大山町内草地)
11.25	西部地区HPAI対応訓練(西部総合事務所)
12.20	日野地区HPAI対応訓練(日野総合事務所)
H24.12. 4	家畜伝染病防疫訓練(西部総合事務所)
H25.10.29	鶏焼却演習(西部総合事務所、三光株式会社)
11.12	防疫実動訓練(島根県中央家畜市場)
11.20	HPAI防疫机上演習(西部家保)
12. 3	通報対応訓練(西部家保、管内養鶏農場)
H26.11.12	西部地区HPAI対応訓練(西部総合事務所)
11.20	日野地区HPAI対応訓練(日南町)

２　訓練内容

平成26年度においては、平成26年11月に机上演習及び実地演習のHPAI対応訓練を実施した。

机上演習では、HPAI 疑い事例が発生し、関係機関に連絡後、関係機関を参集し、発生農場における防疫計画の協議を行う現地連絡調整会議を行った。この演習では、鳥取県西部地区において10万羽肉用鶏飼育の農場で HPAI が発生した想定として、この農場で行われる防疫作業の計画案の中の動員人数、作業スケジュール、殺処分鶏の埋却方法、消毒ポイント設置場所などについて、県機関、管内市町村、管轄警察署及び建設業協会などの防疫作業に携わる関係機関が協議を行い、それぞれの機関が対応すべき内容を確認した(写真１)。

写真1　現地連絡調整会議

実地演習では、発生農場対応を想定した演習と消毒ポイント演習を行った。発生農場対応を想定した演習では発生時に動員予定の西部総合事務所の職員に参集をかけ、動員者は西部総合事務所内に設営した集合施設において、保健師及び医師による健康調査を受け、その後防護服などの作業装備を付けて西部総合事務所駐車場に設営した模擬農場において、模型の鶏の捕獲、炭酸ガスボンベを使用した殺処分の実演、鶏糞等の汚染物品除去や農場内消毒について体験した(写真２)。消毒ポイント演習では、西部総合事務所駐車場に設営した消毒ポイントに西部総合事務所の職員を参集し、動員者は動力噴霧器を使用して実際に車両の消毒を体験した(写真３)。

写真2　発生農場対応想定演習

写真3　消毒ポイント演習

３　訓練終了後の意見・要望等への対応

この訓練と前後して、島根県安来市及び鳥取市内の野鳥の糞便からHPAIウイルスが確認されたため、西部総合事務所各部局をはじめとする関係機関においてHPAI発生に対する危機意識が高まり、訓練終了後には、さまざまな意見や要望が出された。これらの意見や要望について、西部家保と西部総合事務所担当職員で協議し、早急に実施が必要と考えられた図２の項目について速やかに対応した。

図2 訓練終了後の主な意見・要望等

- ●資材確保はどうなっているか
- ●動員者輸送手段は
- ●鳥インフル対応の勉強会が必要
- ●動力噴霧器は誰でも使えるか

〇資材の確保

資材の確保については、主に消耗品については鳥取県として備蓄を進めている状況にあり、また HPAI 発生時の防疫作業に係わる機械類などについてはレンタルなどを行うことになる。HPAI 発生時の資材確保については西部総合事務所内に設置される現地対策本部の物品調達班(西部県税事務所)が担当することになっていたが、職員の異動などで以前決めていた物品の調達方法が不明瞭になっていたため、西部県税事務所と調達方法に関する協議を行った。中でもレンタル予定のものについては、その規格や必要数量を明確化して、発注がスムーズに行えるようにした。

〇輸送手段の確保

HPAI 発生時には農場作業動員者は、各自でまず集合場所である発生市町村に設営される体育館などの集合施設に集合するが(最大で約160名が集合)、その後これらの動員者を発生農場まで輸送する必要がある。

この農場作業動員者の輸送には、当初鳥取県や市町村のバスの利用を考えていたが、バスの保有状況を調べてみると、業務統合が図られた結果、保有バスがない市町村があったり、あっても小型バスであるマイクロバスしかないなど大人数輸送には問題があることが判明した。そのため、鳥取県西部地区にある大手バス業者に農場作業動員者の輸送について協力を依頼したが、バス業者は HPAI の対応ということで、依頼当初は協力に躊躇していた。これはバス業者は動員者輸送用のバス内に HPAI ウイルスが持ち込まれること及び動員者が乗ったバスについて風評被害が起こるのではないかということを危惧していたためであった。その後、西部家畜保健衛生所職員が直接バス業者にHPAI発生時の対応内容を細かく説明し、HPAI ウイルスが輸送バスに持ち込まれることがないことを理解してもらい、バス会社の不安を取り除き、バスの運用に関し協力を得ることができた。

〇HPAI勉強会の実施

HPAI 対応訓練はこれまで毎年実施してきたが、毎回訓練の参加者は４０，５０人ほどであり、西部総合事務所職員全体から見ると、参加は一部の職員に限られていた。このため今年度は HPAI 発生時の対応内容を多くの西部総合事務所職員に伝えた方がよいのではないかという意見があったことから、西部総合事務所職員を対象に HPAI 勉強会を実施した。勉強会ではHPAIの状況、発生時の対応内容についてスライドを用いてわかりやすく説明した。

〇動力噴霧器取扱説明会

動力噴霧器の取り扱いは家保職員等の畜産関係者は慣れているが、一般の職員では状況は異なっている。西部総合事務所において消毒ポイントが設置された際に最初に動員される予定の者12名について動力噴霧器操作の可否について尋ねたところ、うち４名は動力噴霧器操作の経験があり操作できるとの回答を得たが、残り８名については操作の経験はなく操作できないとのことであった。このため西部総合事務所の職員を対象に動力噴霧器取扱説明会を開催した。説明会では参加者全員に動力噴霧器の操作説明書を配布した後に、

順を追って動力噴霧器の操作方法を説明し、動力噴霧器のエンジンをかけたり、ノズルから消毒液を放水することを実際に体験してもらい、その操作方法を習得してもらった。

４　考察

今年度に実施した訓練及びその後の勉強会を通してHPAI発生時の対応について動員予定者に詳しく知ってもらえたと考えられる。また訓練後には各機関から様々な意見・要望等が出され、その対応を行うことでHPAI発生時の備えをより進捗させることが出来た。

今後についてもHPAIなどの家畜伝染病の万が一の発生に備え、今回実施したような訓練を継続して行っていく必要がある。特にHPAIはいつ発生するかわからない疾病であり、訓練やあらかじめ準備の出来ることは実施して、速やかな初動対応を行う体制作りが必要とされる。